

演題 「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト」

発表者氏名 吳地正行（日本雁を保護する会/ ラムサール・ネットワーク日本）

ラムサール条約第 10 回締約国会議（韓国・昌原市, 2008）で、日韓の NGO が支援し、両国政府が共同提案した「水田決議」X.31(湿地システムとしての水田の生物多様性の向上)が採択された。この決議は、水田を食料生産の場とともに、多様な生物が生息する重要な湿地生態系として注目し、その生物多様性を高める施策の推進を締約国に求めるものである。

2010 年には名古屋市で生物多様性条約第 10 回締約国会議（CBD COP10）が開催され、ラムサール COP10（2008 年）で採択された「水田決議」X.31 の完全実施を、CBD の締約国に求める項目を含む、「農業生物多様性」の決定 X/34 を日本政府が提案し、採択された。また、劣化した生物多様性回復をめざす 20 項目が「愛知目標」として採択され、さらに、翌 2011 年～20 年の 10 年間で、この目標達成を広く呼びかける「国連生物多様性の 10 年」とするよう国連に求める決議が、我々 NGO の発意に基づき採択され、その後の国連総会で具体化した。

これらの国際的な流れを現場で具体化するために、ラムネット J では「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト」（通称・田んぼ 10 年プロジェクト）を開始した。そのキックオフ集会が 2013 年 2 月に IUCNJ と共催で栃木県小山市で開催され、農業関係者、市民団体、企業、自治体、研究者など多様な主体が参加した。<http://www.ramnet-j.org/tambo10/> 田んぼ 10 年プロジェクトは、愛知目標に基づき、水田を対象にした 18 の水田目標を設定し、具体的な行動計画に基づいてその目標達成をめざすもので、愛知目標の田んぼ版とも言える。

水田目標とその行動分野は幅広いが、その中の一つを登録すれば参加でき、すでに 60 近い個人・団体が登録を済ませている。同プロジェクトは愛知目標（短期目標）と同じ 2020 年まで継続され、情報交流の場や、目標実現の提案と応援などを行い、2013 年 8 月には宮城県登米市で第 1 回交流会を行う <http://yahoo.jp/box/H0IO6L>。また田んぼ 10 年プロジェクト自体を、愛知目標の達成を市民運動としてめざす「にじゅうまるプロジェクト」に登録し、ホームページ上で参加団体を紹介し <http://bd20.jp/>、またメーリングリストも立ち上げ、参加者の交流に役立てている。

水田とその周辺には、5,668 種の生物の生息が確認されている（桐谷圭治, 2009）。田んぼ 10 年プロジェクトでは、生物多様性を向上させて生物の総合力を生かし、農薬や化学肥料に依存しない持続可能で健全な水田の管理をめざす取り組みを束ね、水田の生物多様性向上が水田農業にも多様な恩恵をもたらすことが実感できる運動体となることをめざしていく。